

箱のなか

山吹

涼虫の平日

クリアファイル

クリアファイルは半透明な中身が透けるものが好みだけれど、大事なものをに入れておくファイルだけはマットなものにしている。

久しぶりに整理をしていたら取扱説明書が出てきた。右上に手書きで、2011/10/24update、とある。

パソコンを買った日だ、と思い出す。

あの日は朝早くから病院で検査をハシゴして、夕方から電気屋に行き二時間かけてようやくパソコンとテレビチューナーを買うことに決めた。夜が始まる頃に抜け殻みたいな状態で地下街を歩いていたら、偶然大好きなひとと行きあった。

ひよろりと背が高い、見慣れた、でも懐かしい姿。
出張帰りなの、パソコン買ったんだ。私たちは少し言葉を交わして別れた。

また会えるし、とのん気に思って。
もう行っちゃうの、という彼の目に気づかなかったことにして。

その後ほどなくして、彼とは会えなくなってしまった。

ふいに、紅葉が深まる午後の公園で、手をつないだけれどそっと振りほどかれた記憶を思い出す。
歩くたびに落ち葉がかさかさ音を立てた。空はからりと晴れて、少し寒い日だった。

私たちはいつからすれ違ってしまったのだろう。

取扱説明書をクリアファイルに戻しながら思う。

あれから私は何度もupdateを重ねたはずなのに、手を振りほどいた彼の気持ちにはまだ届かないのだ。

壺焼き芋専門店

ショッピングセンターの専門店街。お茶屋の隣に、ちいさな木の看板が出ている。

そこでは、薄みどりとページュを足して2で割って灰色を混ぜたみたいな色をした三角巾とエプロンをつけた女の人が看板の横でせっせせっせと白いパックに入った芋を整頓していた。並べ方には規則があるらしい。女の方はディスプレイ用の平らな竹籠の上に放射状に花びらが拡がるみたくにして白いパックを置いていく。

後ろには女性の背丈くらいもある大きな大きな黒い壺が見える。

辺り一面、香ばしくてオレンジがかった濃厚な匂いが漂っている。

私は専門店街の真向かいにある巨大なフードコートの前この椅子に座って、グルグルと渦を巻いたソフトクリームを食べている。

壺焼き芋の濃厚な匂いは蛇みたいに足元からズルズルズルと登ってくる。バニラソフトを食べているはずなのにサツマイモの味がする。真向いの壺焼き芋専門店では、商品のディスプレイが終わったらしい。外に出ていた女の方は、いつのまにか大きな黒い壺の前にいる。

女性が壺についている木の蓋を取ると、壺から、もわりもわりと色のついた気体が出てくるような気がした。

私のソフトクリームはほとんどなくなっている。

壺の両脇を持って女の方は頭を壺の中に突っ込んだ。

壺が女の方を食べているみたいに見える。

女の方の上半身はほとんど壺の中に入ってしまった。

私に巻き付いている濃厚な匂いはギリギリと身体を締め上げていく。

訳もなくドキドキしてくる。

壺の中には沢山の小人が住んでいる。

真ん中で焚き火をしていて、メラメラと火が燃えている。

火の周りで小人達が歌ったり踊ったりしている。

そして、空が割れるのだ。

まず、大きな人の顔が出現して小人は火の中から芋を取り出す。

大きな顔の横から軍手をつけた手が出てくる。

大きな顔についている口が動く。目が笑っているように見える。

小人も笑っているように見える。

身体に巻き付いている匂いの密度がさらに濃厚になっている。胃に落ちた白いソフトクリームもいつの間にか焼き芋色に染まっている。

女の方が芋を片手に壺から戻ってくる。私は何だかわからないが、ものすごくホッとする。

出したばかりの壺焼き芋は白いパックに入れずに深い竹籠に入れるらしい。深い竹籠には今、取

り出したばかりの芋が横1列に並んでいる。売り場の女の方は、それをさっき並べ替えた白いパックが並ぶ竹皿の1段上に置いてから、紅東13時20分焼きたてです！と看板の下に掛かっていた黒板に書きこむ。

そして、一度チョークを置いてから今書いた文字の横にニッコリマークを描き足した。

私はソフトクリームのコーンを覆っていたピンク色の紙を右手で丸めて、牛乳買って帰らなきゃと思い出して立ち上がる。

壺焼き芋専門店の前を通ると、女の方は背中を向けて立っている。

エプロンの紐が縦に結ばっている。

立った紐がウサギの耳みたいに揺れていた。

涼虫の読書案内

「古道具 中野商店」川上弘美（新潮文庫）

だからさあ、というのは中野さんの口癖だ。

古道具屋の店主というのは、中野さんみたいなイメージだ。

ちょっとうさんくさくて、飄々としているんだけどどこか可愛くて憎めない。人生博打のようできて意外と計算高いような、よくわからない印象の。正ちゃん帽が似合って、なぜか女にモテるような。

この物語は、中野商店で店番のアルバイトをするヒトミの視点で古道具屋の日常が淡々と描かれている。

三回目の結婚をしたばかりなのにまた新しい女ができてしまう中野さん、中野さんの姉できっぴのいい人形作家のマサヨさん、バイト仲間の無口な青年タケオ、中野さんの恋人でアスカ堂の美人店主サキ子さん、風変わりな客の面々。商品の買いつけ、露天市への出展、せり。晴れた冬の朝、夏の雨の午後。移り変わる四季。

ヒトミとタケオは、マサヨさんの家に寄った帰りに夜の公園でキスをして、なんとなくいい感じになるのだけれど、恋人同士にしては淡すぎる関係が続く。臆病なふたりは上手く気持ちを伝え合うことができず、ささいなきっかけでぎくしゃくしていく。

誰だって傷つくのはいやなのに、傷つけあってしまうのはなぜだろう。誰かへの想いが深くなると、余剰が出てくるのだろうか。消化しきれない感情の切れ端のようなもの。灰汁みたいなもの。

つい軽い気持ちでタケオにもう会わないと言ってしまうヒトミ、客の女にペーパーナイフで腹を刺されてサキ子さんを泣かせる中野さん。マサヨさんはいう。若いうちはいいわよ、思いっきり相手をなじっても。でも五十代になったらね、誰かを傷つけたあと、次に会う前に相手が死んじゃってる場合があるのよ。

この物語に出てくるひとたちは、自分を偽っていないで、そのままを生きている。もちろんうまくいかないこともある。こうすれば回避できるのに、うまく事が流れるのにと読み手は思う。でももしかすると、ひとの魅力というのはそのいびつさにあるのかもしれない。ええ〜？なんでそうなっちゃうのよ、と怒ったりあきれたり。でも途中から許してしまう。まあいいか...なんか可笑しいし、みたいに。

人って、不器用で、ほんとダメね。でもなんだか、愛しい生き物ね。と思わせてくれる、読後感がすばらしい物語だ。

マサヨさんの作ったタンメン、もやしとニラと筍がいっぱい入ったやつを、熱い熱いっていいながら食べてみたい。店の奥の畳の部屋で、ちゃぶ台を皆で囲んで。

涼

秋になりました。巻物が楽しい季節になってきました。私は毎日ストールを巻きまくりでですが、ちま子さんはどんなのをしますか？

ち

私ね、ストールってあまり得意じゃないの。

ただ巻けばいいのに、どうしてか落ち

着かないの。周りにもマフラーは似合うけど

ストールはやめたほうがいいって：

涼

そういえばちま子さん、ストールしてるの見たことないですね。

ストール願望はある

ち

よお。ストールって、きっちり巻かないよね。ふんわり乗せてるのに肌すけすけで：

何かいいよね。

たしかにデコレマわって、人によって似

涼

すずちまの

重箱の

すみっこ

合う空き具合が違うかもしれませんね。

ストールはレースに近い

の感覚。私にとってはお実態

がないかも。曖昧でぼんやりしてるみたいなの…？

私は逆で、**曖昧なものを**

身につけるのが好きで

すね。存在として揺れていて、中途半端で、あやふやなもの。

実態として確定させたくないのかもしれない。

ああ、女ですね。その発

想は。そうそう、ストールって女になっちゃうの。

ストールは私にとっては非日常で引き寄せたくはないのかも。

私、隙間が

なものが好きだし。

な

涼

マフラーのほうが安心。

使い方が決まってるものね。私ね、**マフラーを**

すると均一な気持ちに

なります。自分の中のふら

ふらした女は一旦引き出しにしまおう、みたいな。

ちま子さんは今きくと、揺

れが必要ない場所にいる

んですね。

そうかもしれない、私はマ

フラーをぐるぐる巻きに

して、ストールに遠く憧れ

続ける女がいいの。その距

離感が好きなのかも。

それは今、目のつまった幸

せの中にいるってことで

すか？分厚いマフラー

いいなあ。ストール、なん

かスーするし！

ふふ、**首元が暖かいと全**

身ぬくんですよお。

ほらほら、涼虫さんもぐる

ぐるギュッと巻いて暖か

くしないとね(笑)

山吹
#f8b500

箱のなか (2014年秋号)

HP : <http://suzuchima.url.ph/>

Twitter : [@suzuchima](https://twitter.com/suzuchima) ©すずちま企画

ダウンロードのご案内

画も入った「箱のなか（薄桜）」は、全国のファミリーマート、ローソン、サンクス、サークルKのネットプリントができるコピー機からプリントできます。その他にもHPよりダウンロードもできます。

プリント方法

- 1、お近くのネットプリントができるファミリーマート、ローソン、サンクス、サークルKに行く。
わからない場合は<http://cvsmap.cvs-sds.com/CS/CC1948176406>で検索できます。
 - 2、コピー機で「ネットワークプリント」を選択する。
 - 3、ユーザー番号「MITJ52FGR6」を入力する。
 - 4、「箱のなか露草号」を選択し、文章プリントを選択します。
 - 5、A3サイズになっているか確認後、プリントスタートボタンを押します。
 - 6、「箱のなか露草号」がお手元に！！
- 半分に折って、そのまた半分の半分に折ると、完成です！！

※申し訳ありませんが、コピー代のご負担をお願いします。

↓下記のページからダウンロードできます。

<http://suzuchima.url.ph/%E3%83%80%E3%82%A6%E3%83%B3%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%89/>

箱のなか（山吹）

<http://p.booklog.jp/book/91138>

著者：すずちま企画

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/suzuchima/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/91138>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/91138>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ